



特集記事

「最近の医薬行政について」

厚生労働省 医薬局医薬品審査管理課 化粧品専門官 古川 真斗

巻頭言

理事長 田尾 大介

令和6年度薬事説明会報告

事務局

薬事説明会第1講演「どんな相手でもストレスゼロ!カスタマーハラスメント対応術」

(演者 一般社団法人日本クレーム対応協会代表理事 谷 厚志氏)

報告:技術委員 緑川 朋子

技術委員会報告

技術委員長 田島 洋一

M G K 便り

事務局だより

編集後記



巻頭言

日本パーマメントウェーブ液工業組合

理事長 田尾 大介

日頃は当組合活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

2025年は市場全体が動きを加速させる一年になると感じています。4月に大阪・関西万博が開幕しましたが、それと連動するように6月には「第10回アジアビューティエキスポ2025」も開催されます。パーマ市場にとっても新たな価値やトレンドが発信される絶好の機会となります。こうした大型イベントの重なりは、国内外の生活者に対しパーマの需要喚起、スタイル提案の幅を広げるチャンスと捉えております。とりわけ近年では、Z世代を中心にナチュラルなカールや韓国系スタイルへの支持が高まっており、さらにジェンダーレス志向の浸透により、新たな層の開拓も進んでいます。2025年度も市場に目を向けながら的確な行動が必要と感じます。当組合といたしましても、こうした動きを確かな成長につなげるべく、安全性の向上と正確な情報提供を通じて、引き続き市場成長の基盤を支えてまいります。

世界経済は依然として不透明な状況が続いております。特に米国の大統領選挙後の動向や、それに伴う通商政策、為替の変動などが国内産業にも影響を与える可能性があり、引き続き注視が必要です。また、国内では人手不足や物価高騰が継続しており、パーマ市場においても、安定した事業運営と価値の持続的な提供が課題となっております。

こうした中でも組合活動を継続できておりますのは、ひとえに会員の皆様のご理解とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

パーマの業界に目を向けますと、当組合では平成19年(2007年)から独自に出荷統計を集計しており、令和2年(2020年)の実績は約69億円と減少傾向にありましたが、令和5年(2023年)には83億円まで回復しました。しかし、令和6年(2024年)は僅かに減少し、出荷金額は約82億円、昨年対比で約98%(出荷数量は約96%)となりました。

カテゴリー別では、医薬部外品のパーマ剤は昨年対比でマイナスとなった一方、化粧品カール剤はプラスを維持しており、デザイン性と傷みにくいパーマを求める市場環境へと変化しているものと考えております。

こうしたニーズの多様化に対応するには、処方自由度を高めることが重要です。そのため、「使用可能な添加物の種類および配合量の増加」に向けた取り組みは、より魅力的な製品の開発を促し、市場の活性化にも寄与すると考えております。このような観点から、「パーマメント・ウェーブ用剤添加物リスト」と「染毛剤添加物リスト」の統合および拡充について日本ヘアカラー工業会と協議し、協働して取り組むことで意見が一致いたしました。その後、両添加物リストの統合及び拡充について厚生労働省に要望を行い、この取り組みについて了承を得ました。引き続き日本ヘアカラー工業会と連携しながら、両添加物リストの完成に向けて当局との協議を進めてまいります。

次に、当組合の会員向け事業としては、例年実施している「薬事説明会」を令和6年11月14日にWEBセミナー形式で開催いたしました。「薬事初心者向けセミナー」もオンデマンド配信にて実施し、会員各社の研修等にご活用いただくなど、ご好評をいただきました。今後も、新たな事業を企画するなど、会員サービスの充実に向けて検討を重ねてまいります。

あらためまして、パーマの持つ可能性と魅力を、より多くの生活者に届けていくことが、今後の市場活性化につながると考えております。当組合といたしましては、引き続き安全・安心の確保を最優先に、業界内外への正しい情報提供と環境整備に取り組んでまいります。また、会員企業の皆様へのサービス向上を図るとともに、関係業界や団体との連携を深めながら、パーマ市場全体の持続的な成長に貢献し、市場を作ってまいります。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。